

# 薬学部

薬学 科

薬科学 科

医療栄養学 科

# 履修の手引と手続 (薬学科)

## I 授業科目について

薬学部薬学科における授業科目は、基本科目（講義・演習）、専門科目（講義、演習、実習）及び関連科目からなっている。授業科目のうち、基本科目、関連科目は1・2年次に履修する。

そのほか教員志望者のための教職関連科目がある。

## II 授業科目の単位と認定

本学では単位制が採用されている。単位制とは、一つ一つの授業科目に一定の基準により定められた単位があり、履修した授業科目に対して、試験その他の方法により学習評価をしたうえでその単位を認定する制度である（学則第15条参照）。

単位認定の評価は、S・A・B・C・Nにより単位を修得したことを示す。

## III 進級基準

1. 当該学年に配分されている必修科目（基本科目及び専門必修科目）の単位を修得しなければ進級できない。ただし、未修得必修科目数が3科目以下の者の進級を認めることがある。なお、未修得必修科目数とは、下級学年の未修得必修科目数をも加算されたものをいう。また、2年次から3年次への進級にあたっては、関連科目（選択必修6単位以上）を必ず修得していなくてはならない。

進級の詳細については、「進級判定の対象となる科目」の表（第1表）の進級条件を参照のこと。

2. 正当な理由なく複数回留年したものについては、学則に従い適当な処置を講ずるものとする。

### 3. 進級判定の対象となる科目

第1表

		1年→2年	2年→3年	3年→4年	4年→5年	5年→6年
		科目名	科目名	科目名	科目名	科目名
基本科目	講義	コミュニケーション基礎英語A コミュニケーション基礎英語B コミュニケーション基礎英語C コミュニケーション基礎英語D				
	演習	フレッシュマンセミナー(薬学)A フレッシュマンセミナー(薬学)B				
専門科目	講義	薬学概論 化学A 化学B 生物学A 生物学B 細胞生理学 解剖学 生理学A 微生物学 生物学入門 生化学A 生化学B	有機化学A 有機化学B 分析化学A 分析化学B 生理学B 薬理学A 病原微生物学 免疫学 基礎栄養学 物理薬理学A 物理薬理学B 物理化学A 物理化学B 病態学 生薬学 基礎薬理学	コミュニティファーマシー論 薬剤師関係法制度概論 有機化学C 薬理学B 薬理学C 薬物治療学A 薬物治療学B 調剤処方学 生物薬剤学 毒性学A 毒性学B 公衆衛生学A 生化学C 薬物動態学 漢方薬	医薬品情報学 社会と薬学 公衆衛生学B 製剤材料学 製剤管理学 医療栄養学 薬物治療学C	
	演習	化学A演習 化学B演習 基礎有機化学演習	解剖学演習 薬学総合演習A 薬学英語入門	生物統計学演習 薬学総合演習B 実用薬学英語 病態学演習A 病態学演習B 看護/介護/社会福祉演習 医薬品化学演習 生物有機化学演習	薬事法制度概論演習 薬物治療演習 調剤処方演習 薬学総合演習C コミュニケーション体験演習 薬学総合実習・演習A	統合演習 導入講義・演習
	実習 (演習含む)	薬学実習A (コンピュータ活用を含む) 薬学実習B	薬学実習C (コンピュータ活用を含む) 薬学実習D	薬学実習E 薬学実習F	薬学総合実習・演習B 薬学総合実習・演習C	病院実習 薬局実習
進級条件		1) 基本科目の講義と演習及び専門科目(必修)の講義と演習の未修得が3科目までは進級を認めることがある。 2) 専門科目の実習は全科目修得のこと。	1) 基本科目の講義と演習及び専門科目(必修)の講義と演習の未修得が3科目までは進級を認めることがある。ただし、薬学総合演習Aは修得のこと。 2) 専門科目の実習は全科目修得のこと。 3) 関連科目6単位修得のこと。	1) 基本科目の講義と演習及び専門科目(必修)の講義と演習の未修得が3科目までは進級を認めることがある。ただし、薬学総合演習Bは修得のこと。 2) 専門科目の実習は全科目修得のこと。	1) 基本科目の講義と演習及び専門科目(必修)の講義と演習の未修得が3科目までは進級を認めることがある。ただし、薬学総合演習Cは修得のこと。 2) 専門科目の実習は全科目修得のこと。	1) 基本科目の講義と演習および専門科目(必修)の講義と演習の未修得が3科目までは進級を認めることがある。 2) 専門科目の実習は全科目修得のこと。なお、「病院実習」「薬局実習」および「導入講義・演習」は進級対象外とすることもある。

#### Ⅳ 卒業について

- 卒業可能最低科目数及び単位数は次の表に示すとおりである。

第2表

系列		項目	科目数	単位数
		基本科目		
		基本科目	6	10
専門科目	必修		87	162
	選択		4以上	8
関連科目		I群・II群	3以上	6
		計	100以上	186

#### Ⅴ 授業科目の学年配当と修得すべき単位数

##### 1. 基本科目

基本科目は、大学における学習方法や、学生生活の指導を通して自立した社会人としての意識づけを行うこと、及び英語の習得にあてられる。

- 基本科目は、全て必修科目であるから必ず修得しなければならない。(学則第17条)
- 基本科目は1年次に履修するものとする。(学則第17条)

##### 学年配当表

[薬学科]

第3表

※単位数に○印を付してある科目は必修を示す。

系列	授業科目	年次及び単位数						最低取得 単位数	備考
		1年	2年	3年	4年	5年	6年		
基本 科目	フレッシュマンセミナー(薬学)A	①						10単位	
	フレッシュマンセミナー(薬学)B	①							
	コミュニケーション基礎英語A	②							
	コミュニケーション基礎英語B	②							
	コミュニケーション基礎英語C	②							
	コミュニケーション基礎英語D	②							

## 2. 専門科目

専門科目は、高い専門性を有し、高齢者医療、在宅医療を含む地域の医療の場で活躍し得る薬剤師を養成するために必要な科目として配置されている。総合薬学分野Ⅰには医療人・薬剤師としての素養を養い、自覚をそだてるための科目、基礎薬学分野には、医薬品を化学物質として理解するための、また、生体の仕組みの基礎を理解するための科目、生理・治療分野には、ヒトと疾病の関連性を理解するための科目、医療薬学分野には医薬品を管理し、投薬することに関わる知識・技能を修得するための科目、総合薬学分野Ⅱには、修得した医療薬学分野における知識・技能の広範囲な領域の応用、展開を可能にするための科目、を配置している。

卒業するために専門必修科目は 87 科目（162 単位）を修得しなければならない。

専門選択科目については、4 科目以上（8 単位以上）を修得しなければならない。

（1）専門必修科目、及び専門選択科目の学年配当は第 5 表のとおりである。

第 4 表

年 次	必 修		選 択	
	科目数	単位数	科目数	単位数
1 年	17	29	4	6
2 年	21	38	4	7
3 年	25	40	6	10
2 年～3 年	0	0	1	1
4 年	15	22	1	1
5 年	4	22	0	0
6 年	4	5	2	3
1 年～6 年	0	0	5	10
4 年～6 年	1	6	18	31
計	87	162	41	69

学年配当表

[薬学科]

第5表

※単位数に○印を付してある科目は必修を示す。

系列	分野	授 業 科 目	年次及び単位数						最低履修科目数 及び履修単位数	備 考
			1年	2年	3年	4年	5年	6年		
専門科目	総合薬学分野Ⅰ	薬学概論	①						必修科目 162 単位  選択科目 8 単位 選択必修	
		基礎化学	1							
		生物学入門	①							
		基礎物理学	1							
		薬学数学	2							
		ボランティア体験		1						
		総合生物		2						
		薬学総合演習A		①						
		看護/介護/社会福祉演習			①					
		薬学総合演習B			①					
		コミュニケーション体験演習				①				
	基礎薬学分野	化学A	②							
		化学A演習	①							
		生物学A	②							
		生物学B	②							
		細胞生理学	②							
		化学B	②							
		化学B演習	①							
		物理化学A		②						
		物理化学B		②						
		微生物学	②							
		基礎有機化学演習	①							
		有機化学A		②						
		有機化学B		②						
		分析化学A		②						
		分析化学B		②						
		生化学A	②							
生化学B	②									
病原微生物学		②								

系列	分野	授 業 科 目	年次及び単位数						最低履修科目数 及び履修単位数	備 考
			1年	2年	3年	4年	5年	6年		
専門科目	基礎薬学分野	免疫学		②						
		公衆衛生学A			②					
		有機化学C			②					
		有機化学演習			1					
		生薬学		②						
		生化学C			②					
		医薬品化学演習			①					
		生物有機化学演習			①					
		生物統計学演習			①					
		定量的構造活性相関						2		
		医薬品の製造プロセス						2		
		物理化学演習						1		
		薬学実習A (コンピュータ活用を含む)	②							
		薬学実習B	②							
		薬学実習D		②						
	選択実験			1						
	放射化学実習						1			
	生理・治療分野	解剖学	②							
		生理学A	②							
		生理学B		②						
		薬物治療学A			②					
		薬物治療学B			②					
		基礎薬理学		①						
		薬理学A		②						
		薬理学B			②					
		基礎栄養学		②						
		毒性学A			②					
		毒性学B			②					
		薬理学C			②					
		薬物治療学C				②				
病理学							2			
ライフステージ栄養学				2						

系列	分野	授 業 科 目	年次及び単位数						最低履修科目数 及び履修単位数	備 考
			1年	2年	3年	4年	5年	6年		
専門科目	生理・治療分野	化粧品・医薬部外品学A		2						
		化粧品・医薬部外品学B			2					
		医療における食品学		2						
		食品機能学			2					
		医療栄養学				②				
		医療における栄養	2							
		食品調理加工学実習			1					
		ハーブ論					2			
		臨床検査学					2			
		臨床分析学					2			
		病態学		②						
		解剖学演習		①						
		病態学演習A			①					
		病態学演習B			①					
		薬学実習C (コンピュータ活用を含む)		②						
	薬学実習E			②						
	医療薬学分野	物理薬剤学A		②						
		物理薬剤学B		②						
		医薬品情報学				②				
		調剤処方学			②					
		生物薬剤学			②					
		製剤材料学				②				
		薬物動態学			②					
		製剤管理学				②				
		臨床心理学			2					
		漢方薬			①					
		天然物化学			1					
		栄養・薬学マネジメント論					2			
		緩和医療学					2			
		薬毒物分析 (演習を含む)							2	
		薬物治療演習				①				



系列	分野	授 業 科 目	年次及び単位数						最低履修科目数 及び履修単位数	備 考
			1年	2年	3年	4年	5年	6年		
専門科目	医療薬学分野	調剤処方演習				①				
		医療栄養学演習				1				
		薬学実習F			②					
		コミュニティファーマシーインターンシップ				1				
		導入講義・演習					①			
		学内実務実習演習							②	
		薬局実習					⑩			
		病院実習					⑩			
	総合薬学分野Ⅱ	コミュニティファーマシー論			①					
		薬剤師関係法制度概論			②					
		社会と薬学				②				
		公衆衛生学B				②				
		医薬品開発・治験論							①	
		社会保険制度・コミュニティファーマシー論							①	
		新薬開発論					2			
		公衆衛生学C					2			
		治験・統計学					2			
		医薬品・食品・化粧品マーケティング論					2			
		薬学英語入門		①						
		実用薬学英語			①					
		薬学韓国語				2				
		薬学中国語				2				
		海外薬学英語研修Ⅰ				2				
		海外薬学英語研修Ⅱ				2				
		海外薬学英語研修Ⅲ				2				
		薬事法制度概論演習				①				
		コミュニケーション・プレゼンテーション							1	
		薬学総合演習C				①				
		薬学総合演習D							①	
		バイオインフォマティクス					2			
データ解析とコンピュータ活用					1					

系列	分野	授 業 科 目	年次及び単位数						最低履修科目数 及び履修単位数	備 考
			1年	2年	3年	4年	5年	6年		
専門科目	総合薬学分野Ⅱ	医療ボランティア				1				
		統合演習					①			
		薬学総合実習・演習A				①				
		薬学総合実習・演習B				①				
		薬学総合実習・演習C				①				
		卒業研究					⑥			

### 栄養・薬学アドバンストコース（専門選択科目）について

栄養・薬学アドバンストコースを修得するためには、第6表に示されたすべての科目の単位を修得しなければならない。

また、3年次に開講の「食品調理加工学実習」を履修する場合は、1年次の「医療における栄養」、2年次の「医療における食品学」と「基礎栄養学」（必修）の単位修得者とする。

なお、3、4年次開講の科目については、履修制限を設ける場合がある。

第6表

学年	科 目 名	単位数	学年	科 目 名	単位数
1	医療における栄養	2	3	食品調理加工学実習	1
2	医療における食品学	2	4	栄養・薬学マネジメント論	2
3	食品機能学	2	4	医療栄養演習	1
3	ライフステージ栄養学	2			

### 3. 関連科目

関連科目は、幅広い人間性を養う上で有用な科目であり、教養科目（人文系，社会系，自然系）外国語科目，体育関係科目及び語学教育センター講座科目から構成されている。

関連科目は2年次修了時までには6単位以上を修得しなければならない。

#### 学年配当表

〔薬学科〕

第7表

系列	授 業 科 目	年次及び単位数						最低履修科目数 及び履修単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年	5年	6年		
関連科目Ⅰ群	倫理とは何か	2						関連科目 6単位 選択必修	
	現代社会と法Ⅰ（日本国憲法）	2							
	人と文化	2							
	社会学 A	2							
	心理学Ⅰ	2							
	ジェンダー文化論	2							
関連科目Ⅱ群	近世の日本史Ⅰ	2							
	日本の文学Ⅰ	2							
	地域と風土	2							
	現代社会と法Ⅱ（国際法を含む）	2							
	数理解析 A		2						
	数理解析 B		2						
	物理学 A	2							
	物理学 B	2							
	世界の中の日本 A	2							
	世界の中の日本 B	2							
	地域と大学	2							
	女性人材開発論 A	2							
	女性人材開発論 B	2							
	グローバル社会と女性	2							
	女性とダイバーシティ（女性の働き方）	2							
	女性とキャリアデザイン（女性と企業）	2							
	国際グローバル研修	2							
	自校史研究（建学の精神と大学の理念）	2							
Oral English I A	2								
Oral English I B	2								

系列	授 業 科 目	年次及び単位数						最低履修科目数 及び履修単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年	5年	6年		
関 連 科 目 Ⅱ 群	Oral English II A		2						
	Oral English II B		2						
	資格英語 I A	2							
	資格英語 I B	2							
	資格英語 II A	2							
	資格英語 II B	2							
	資格英語 III A	2							
	資格英語 III B	2							
	資格英語 IV A	2							
	資格英語 IV B	2							
	English Communication I A	2							
	English Communication I B	2							
	English Communication II A		2						
	English Communication II B		2						
	English Communication III A		2						
	English Communication III B		2						
	海外英語研修	2							
	ドイツ語 I A	2							
	ドイツ語 I B	2							
	ドイツ語 II A		2						
	ドイツ語 II B		2						
	中国語 I A	2							
	中国語 I B	2							
	中国語 II A		2						
	中国語 II B		2						
	海外中国語研修	2							
	スペイン語 I A	2							
	スペイン語 I B	2							
	スペイン語 II A		2						
	スペイン語 II B		2						
	海外スペイン語研修	2							
	韓国語 I A	2							
韓国語 I B	2								

系列	授 業 科 目	年次及び単位数						最低履修科目数 及び履修単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年	5年	6年		
関 連 科 目 Ⅱ 群	韓国語ⅡA		2						
	韓国語ⅡB		2						
	海外韓国語研修	2							
	フランス語ⅠA	2							
	フランス語ⅠB	2							
	フランス語ⅡA		2						
	フランス語ⅡB		2						
	外国語・文化研修(ヨーロッパ)	4							
	ハンガリー語ⅠA	2							
	ハンガリー語ⅠB	2							
	ハンガリー語ⅡA		2						
	ハンガリー語ⅡB		2						
	ポーランド語ⅠA	2							
	ポーランド語ⅠB	2							
	ポーランド語ⅡA		2						
	ポーランド語ⅡB		2						
	チェコ語ⅠA	2							
	チェコ語ⅠB	2							
	チェコ語ⅡA		2						
	チェコ語ⅡB		2						
	マレー語ⅠA	2							
	マレー語ⅠB	2							
	マレー語ⅡA		2						
	マレー語ⅡB		2						
	スポーツ科学Ⅰ	2							
	スポーツ科学Ⅱ	2							
	地圏環境	2							
	物理学実験(コンピュータ活用を含む)	1							
地学実験(コンピュータ活用を含む)	1								
情報科学(演習含む)		2							

系列	授 業 科 目	年次及び単位数						最低履修科目数 及び履修単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年	5年	6年		
関連科目群	文化研究Ⅰ	1						留学生履修科目	
	文化研究Ⅱ	1							
関連科目 (語学教育センター講座)	留学英語ⅠA	2							
	留学英語ⅠB	2							
	留学英語ⅡA		2						
	留学英語ⅡB		2						
	教養英語ⅠA	2							
	教養英語ⅠB	2							
	教養英語ⅡA		2						
	教養英語ⅡB		2						
	英語集中トレーニングⅠA	4							
	英語集中トレーニングⅠB	4							
	英語集中トレーニングⅡA		4						
	英語集中トレーニングⅡB		4						
	Advanced Academic English A		2						
	Advanced Academic English B		2						
	Public CommunicationⅠA	2							
	Public CommunicationⅠB	2							
	Public CommunicationⅡA		2						
	Public CommunicationⅡB		2						
	中国語集中トレーニングⅠA	4							
	中国語集中トレーニングⅠB	4							
	中国語集中トレーニングⅡA		4						
	中国語集中トレーニングⅡB		4						
	中国語集中トレーニングⅢA			4					
中国語集中トレーニングⅢB			4						
日本語特殊演習ⅠA			2						
日本語特殊演習ⅠB			2						
日本語特殊演習ⅡA			2						
日本語特殊演習ⅡB			2						

系列	授 業 科 目	年次及び単位数						最低履修科目数 及び履修単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年	5年	6年		
関連科目 (語学教育センター講座)	日本語特殊演習ⅢA			2				留学生履修科目	
	日本語特殊演習ⅢB			2					
	日本語特殊演習ⅣA			2					
	日本語特殊演習ⅣB			2					
	日本語特殊演習ⅤA			2					
	日本語特殊演習ⅤB			2					
	日本語特殊演習ⅥA			2					
	日本語特殊演習ⅥB			2					

#### 4. 自由科目

これらの科目は自由科目であり，卒業に必要な単位数には算入されない。

##### 学年配当表

[薬学科]

##### 第8表

系列	授 業 科 目	年次及び単位数				備 考
		1 年	2 年	3 年	4 年	
	医薬品情報・マネジメント概論A		2			
	医薬品情報・マネジメント概論B		2			
	NR 特講				1	



## Ⅵ 授業科目の履修申請

各年次において履修しようとする授業科目は、学年初めの指定された期日に所定の方法（オリエンテーションで説明する）で履修申請をしなければならない。履修申請は、年間の受講計画をたて、**単位を修得する意思表示をする**学年初めの重要な手続きである。この履修申請を間違えたために、授業科目の履修ができなくなり、その結果進級はもとより、卒業ができなくなる場合もあるので、以下に掲げる注意事項を厳守して、誤りのないように履修申請をすること。

(1) 履修申請は、当該学部・学科の授業時間割表を参照し、曜日、時限、コマ・コード、授業科目名、開講期間、担当教員等を確認し申請を行なうこと。

\* コマ・コードとは、授業時間割表に授業科目名等と共に記載されている番号で、その時限の授業科目の固有の番号である。

(2) 履修申請をした後は、授業科目および担当教員などの変更、追加、取消しなどは認めないので、申請前に授業時間割表と照合してもう一度確認するなど、細心の注意を払うこと。なお、履修照合日が設けられているので間違いなく登録されているかどうか必ず確認すること。

(3) 履修申請をしていない授業科目は受講しても単位は認められないので、授業科目の申請にあたっては進級や卒業に必要な単位の算定を慎重に行ない、修得単位数が不足しないように万全を期すこと。

(4) 同一時限に2つ以上の授業科目を履修することはできない。

(5) 単位を修得した授業科目は、再度履修することはできない。

(6) 指定された期日までに履修申請を行なわない場合は、学業の意思なしとみなし、**退学を命ずる**（学則第69条）。

## Ⅶ 正規の履修からはずれる場合

### 1. 再履修

前年度不合格となった科目を次年度履修することをいう。原則として再履修クラスのある科目は再履修クラスで履修すること。ただし、再履修科目が修得すべき他の科目と時間割上の配置が重なるなどの問題があるときには、規定外履修すること。規定外履修クラスの履修が困難な場合、時間割外履修を申請し、単位修得の方法について、担当教員の指示に従うこと。

### 2. 規定外履修

該当するクラスの授業時間以外で受講せざるを得ない場合の履修を規定外履修という。その場合必ず学部事務室に相談すること（原則として1年生は認めない）。

## Ⅷ 履修上の注意

### 1. 実験・実習科目について

実験・実習科目は、全て出席しなければならない。ただし、各実験・実習において4/5以上出席した者には、単位の修得を認めることがある。

### 2. 上位学年に配分されている科目は履修できない。

ただし、留年者にあつては、直上位学年に配分されている専門選択科目の履修を認めることがある。

### 3. 履修科目の登録の上限

履修科目として登録できる単位数の上限は、1学年当たり、基本科目（講義・演習）、専門科目（講義・演習・実習）及び関連科目を合わせて49単位までとする。ただし、自由科目の単位は上限の49単位には含めない。留学を希望する学生については、上記に定められた単位数を超えて履修単位の登録を認める場合がある。

## Ⅸ 試験について

### 1. 定期試験及び臨時試験

- (1) 試験は、定期試験及び臨時試験とし、定期試験は原則として学期末又は学年末に行う。
- (2) いずれの授業科目も原則として授業時数の3分の1以上欠席した者は、当該授業科目の受験資格を失う。ただし、病気又は、正当な理由による欠席の場合には、特別に考慮されることがある。

### 2. 試験に関する注意

- (1) 試験時間割は掲示により通知する。
- (2) 試験場内では、すべて監督者の指示に従わなければならない。
- (3) 受験者は、試験開始10分前までに試験場に入らなければならない。
- (4) 試験開始後は、遅刻者の入室は認められない。ただし、特別の事由により遅刻した者は、試験開始後20分以内までは入室を認めることがある。
- (5) 受験者は、試験終了後、監督の指示があるまで退場することができない。
- (6) 受験者は、必ず学生証を机上の見やすい所に置く。
- (7) 試験場では、持込みを許されたもの以外は、カバンの中に入れるか、机の中にしまうこと。
- (8) 試験場では、一切物品の貸借は許されない。  
(ノート、参考書等の使用を許された場合には自分のものを使用すること)

- (9) 答案用紙には、必ず学籍番号、氏名を記入すること。答案用紙を場外に持ち出すことは許されない。
- (10) 受験者は、試験中監督者の許可を得ないで、試験場を出ることはできない。
- (11) 試験場内の座席は、監督者の指示に従うこと。
- (12) 不正行為をした者については、学則第 68 条により罰せられ、更にその年度における当該授業科目の単位の認定を行わない。
- (13) その期の授業料未納者は、受験できない。
- (14) 事故のため受験できなかった者は、欠席届に詳細な理由を記し、かつ学科目・担当者・クラス別に明記し、保証人連署のうえ、病気の場合は診断書を、その他の場合は事故を証明する書類を添付して、早急に科目担当者及び学部事務室に提出すること。

### 3. 追 試 験

- (1) やむを得ない事情によって定期試験を受験できなかった者は、当該授業科目担当教員の許可があれば追試験を受けることができる。(成績通知書に T の表示がある科目)
- (2) 追試験の受験を許可された者は、「追試験受験願」を学部事務室に提出しなければならない。  
追試験の受験料は、1 科目につき 200 円とする。(受験票は紛失、破損等のないよう注意すること)
- (3) 追試験は、履修(再履修を含む)した年度に限り受けることができる。
- (4) 追試験は、原則として学期末及び、学年末に実施する。

### 4. 再 試 験

- (1) 定期試験の結果、不合格となった授業科目のある者は、当該授業科目担当教員の許可があれば再試験を受けることができる。(成績通知書に F の表示がある科目)
- (2) 再試験の受験を許可された者は、「再試験受験願」を学部事務室に提出しなければならない。  
再試験の受験料は、1 科目につき、1,000 円とする。(受験票は紛失、破損等のないよう注意すること)
- (3) 再試験は、履修(再履修を含む)した年度に限り受験することができる。
- (4) 再試験は、原則として学期末及び、学年末に実施する。ただし、授業科目によっては再試験を行わない場合もある。

## 5. 論文試験（レポート）

論文提出によって試験に代えることがある。再試験もしくは追試験として評価する場合は上記のそれぞれの手続は必要である。

## X 成績発表

1. 成績発表は、Web 成績照会システムを用いて行う。開示期間中に指定 URL にアクセスし、確認すること。成績の評価は、下記 XI GPA についての「GP の基準」を参照のこと。
2. 単位を修得した科目の再評価は行わない。
3. 成績についての疑問、質問などは早急に学部事務室に問合せること。

## XI GPA について

本学では、「GPA (Grade Point Average)」制度を導入している。以下に示すことを十分理解しておくこと。

### 1. GPA の意味

- (1) GPA の値とは、自分の成績を数値化したものである。学期毎や学年毎までの GPA や入学からの通算の GPA を比較することで、自らの学習成果の推移を知ることができる。
- (2) GPA の値には、T 評価、F 評価および Z 評価を受けた科目についても計算に組み入れられる。したがって、安易に考えて開講期間の半ばで授業参加をやめた場合などは低い値となる。

### 2. GPA の計算

「GPA」は、下記の基準に基づいて評価した成績の GP (Grade Point) に各科目の単位数を掛けて合計し、履修登録した科目の単位数の合計で割った 1 単位あたりの GP 平均値 (Average) である。仮に、履修した科目の成績がすべて「S」評価の場合は GPA の数値は 4 になり、すべての成績が「C」の場合は 1 となる。

## 「GPの基準」

成績評価 (表示)	評価の基準 (点)	合否	GP
S	100 ~ 90	合格	4
A	89 ~ 80	合格	3
B	79 ~ 70	合格	2
C	69 ~ 60	合格	1
F	59 以下	不合格	0
T	追試験受験可	未受験 (不合格)	0
Z	失格	不合格	0

$$\text{GPA} = \frac{[\text{GP} \times \text{当該科目の単位数}] \text{の合計}}{\text{履修登録科目の単位数の合計 (T 評価, F 評価, Z 評価科目を含む)}}$$

(注) 不合格となった科目を次年度以降に再履修して合格した場合には、成績は上書きされ、過去の不合格の成績は、GPA 計算式に算入されない。

(注) GPA計算式に算入されない科目もある。

## XII 試験における不正行為の懲戒について

試験における不正行為は厳禁とし、不正行為を行った受験生は厳正に処分する。不正行為に関する定めは本書「城西大学 学内試験等における不正行為の取り扱い指針」を参照すること。

## XIII 薬剤師国家試験

試験方法・内容などの詳細については、厚生労働省からの連絡を待って通知する。

## XIV 薬学部薬学科における卒業後に取得可能な主な資格

薬局の開設者・管理者 医薬品配置販売業 医薬品販売業の管理者 医薬品製造業の管理者  
医薬部外品製造所の責任技術者 化粧品製造所の責任技術者 医療用器具製造所の責任技術者  
毒物及び劇物事業管理者 麻薬管理者 麻薬輸入業の管理者 麻薬製造業の管理者 麻薬卸売業  
の管理者 麻薬小売業の管理者 薬事監視委員 食品衛生監視員 食品衛生管理者 環境衛生指  
導員 検疫委員 衛生管理者 作業環境測定士 環境計量士 危険物取扱者

## XV 病院実習・薬局実習について

実務実習（対応する科目は「病院実習」「薬局実習」：5年次に実施予定）については、原則として「病院・薬局実務実習関東地区調整機構」を介して協力施設に依頼して実施する。

学生が、実際に患者がいる実務施設で、間違いなく、かつ、高い質を保ちながら実務実習を行うために、学生は実習に必要な基本的な知識・技能・態度を修得していることが必要である。また、薬剤師でないものが実務施設で実習を行うために、実習前に共用試験【コンピュータ試験（CBT）および客観的臨床能力試験（OSCE）】に合格しなければならない。（対応科目は「薬学総合演習C」）。さらに、実務実習に先だって、学内において実務実習に対応した模擬実習（対応科目「薬学総合実習・演習A, B, C」）を行う。

### （1）コンピュータ試験（CBT：Computer Based Testing）

実務実習の開始前に学生の実務実習に必要な基本的な知識を主に評価するものである。学内のコンピュータを使用して、実施する。

### （2）客観的臨床能力試験（OSCE：Objective Structured Clinical Examination）

実務実習の開始前に学生の実務実習に必要な技能・態度を主に評価するものであり、模擬患者にどのように接するか、また、調剤を正しく実施するか、などを試験官である教員（薬剤師）が試験する。

本学で実施する。

### （3）学内実務実習事前学習

実務実習に先立って、病院および薬局における調剤・製剤、患者応対などを模擬体験するため、学内において実務実習に対応した模擬実習を行う。